

消費者教育 実践事例集

第126回

高校との協働による 中学生向け消費者啓発CDの制作

長崎市消費者センター

本教材制作に至った経緯およびねらい

長崎市消費者センターにおける若年者(20歳未満)の消費生活相談は、定期購入やオンラインゲーム課金などを中心に多岐にわたっています。日々新しい手口が増えるなか、社会経験が少ない若年者層に対して消費者トラブル等の啓発を強化し、より高い関心を持ってもらうことが当センターの課題でした。

しかし、課題解決の検討を始めた当時は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で対面による出前講座の実施自体が困難となっており、啓発を強化するためには、別の方法を模索する必要がありました。

そんな折、各学校ではコロナ禍での感染防止対策として給食時に黙食を行っていることを知り、この給食時に行っている校内放送を啓発に利用できるのではないかと考え、家庭科で消費生活について学習する中学生を対象にラジオドラマ風の音声CDを制作してはどうか、ということになりました。

また、CDの制作に当たり、①多感な年頃の若年者層に対して、若年者層の視点を取り入れた教材がよいのではないか、②「消費者啓発教材」の制作を通じて、消費者トラブルを学ぶ機会の提供ができないか、という2点を主軸として検討した結果、対象の中学生に年齢の近い、身近な先輩である長崎市内の高校生に協力をお願いすることにしました。これにより、制作に携わる高校生自身も消費者トラブルについて学ぶことができ、活動が身近な後輩たちの消費者トラブルの未然防止の一助となる、いわば社会貢献の一環となりました。

高校への協力依頼に当たっては、当センターの職員が以前在籍していた長崎南山高等学校に打診したところ、快く賛同いただき、2021年度から同校の生徒とともに活動をスタートすることになりました。2022年度以降は長崎南山高等学校と交流があった純心女子高等学校にも賛同いただき、現在は当センターと2校との協働事業として取り組んでいます。

CDの制作は、まず当センターが消費者トラブル等に関する内容のシナリオ案を両校に提供します。このシナリオ案をもとに両校の生徒が物語仕立ての台本を完成させ、生徒の声で音源の録音を行っています(写真1)。CDには1枚に5本のストーリーを収録しており、CDのジャケットも生徒が手描きしたイラストを使用しています(写真2)。

多岐にわたるストーリーを収録

収録したストーリーは、契約を題材にしたものや若年者に多いオンラインゲームでの課金、通信販売での偽サイトや定期購入などの消費者トラブルのほか、エシカル消費や消費者市民社会に関するものなど、多岐にわたります。

写真1 高校生による録音の様子



写真2 これまでに制作したCD

トラブル事例を周知するストーリーだけではなく、自分の消費行動が社会に及ぼす影響について考えさせるようなストーリーも盛り込むことで、自立した消費者としての意識の向上を図っています。

市内全中学校へのCD配布

完成したCDは、当センターから市内の全中学校49校に配布し、中学校ごとに消費者トラブルを学ぶ教材として活用を図っています。

各学校では校内放送による活用のほか、市内中学校で当センター職員が実施する出前講座の中で消費者トラブル事例を紹介する際にも使用しています(写真3)。

CDの制作に携わった高校生およびCDを聴いた中学生の双方にアンケートを行っていますが、その結果からも双方ともに消費生活に対する意識の向上を図ることができていることが分かりました。また、高校生や中学生のそれぞれのように近所で見ていた双方の教員からも高い評価をいただいております。消費者教育の重要性についても改めて認識する機会が設けられていると感じています。

●CDの制作に携わった高校生の感想

- ・ CD録音を通して、録音した話のような経験はなかったけれど、これからは起こりうる可能性があるため、もし起こった場合に何をすればいいのかを勉強させてもらいました。
- ・ この活動は、中学生のうちにこのようなトラ

ブルがあることを知れるきっかけになると思うのでとてもよい取り組みだと思いました。このCDを聴いた中学生の子たちが、1人でも多くトラブルにあわないようになってくれたらうれしいです。

●CDを聴いた中学生の感想

- ・ ドラマを聴いて自分に起こりうることだと感じ、日頃からこのようなことがないようにしたいです。もっとドラマを紹介してほしいです。
- ・ 普段、当たり前のように「消費」を行っている私たちですが、その中にはワナもあったり、「消費」により助けられている人がいることを、改めて考えることができました。ドラマで学んだことを今後の買い物に生かしていこうと思います。

今後も取り組みを継続

この取り組みは、中学生に対する消費者トラブルの未然防止を図るだけでなく、高校生が中学生に対して消費者啓発の一翼を担う教材を制作することを通じて、社会貢献を行うとともに、自らの消費者としての意識を高めるものです。今後も高校2校の協力を得ながら、CDの制作を通して学校教育における消費者意識の向上、また、社会全体における消費者教育の推進を図ることができるよう、取り組んでいきたいと思っています。

写真3 中学校でCDを活用した出前講座も実施